

データで 耕セン

最先端の研究学園都市、茨城県つくば市。
この地でデータと理論に基づいた農業を実践するのが
伏田直弘さん率いるふしちゃんファームです。
畑をとりまく様々な固定概念を打ち破り、突き進む日々。
「やっているのは農業ではなく管理」という、
その心は――。

稼げる有機農業を頼れるのはデータと理論



1 手早く、丁寧に、収穫作業が進められていく。車輪付きの椅子に座って体の負担を軽減。

2 小松菜の収穫作業中のスタッフたちと伏田さん。



水撒きはスマホ予約で

「頭脳派ビニールハウスって感じ」
「常識にとらわれていない」
「こんなに頭脳を使って農業するなんて」

中継をつないだ動画のチャット欄には視聴者からの驚きのコメントが相次ぎました。2月26日に行われた大地を守る会の「オーガニックフェスタ」での一コマ。全国各地の生産現場と消費者をつなぎ、「顔の見えない関係」を満喫するイベントです。

茨城県つくば市のふしちゃんファームでは、小松菜やロメインレタス、水菜を栽培しています。代表の伏田直弘さんが8年前に新規就農したときには8棟だったビニールハウスが、いまでは49棟に。オーガニックフェスタでは、それらのハウスと中継をつなぎ「最先端IT農業」の一端を伏田さんが紹介しました。

さて、最先端IT農業とは一体どういうことでしょうか。

伏田さんにそう尋ねると、ポケットからスマートフォンを取り出して見せてくれました。「1分後に水を撒く」という内容で予約をすると、その通りにハウスの中のスプリンクラーから水が放出され始めました。「ハウス1棟ずつに撒いて止めて、をやっていたら大変です。これなら予約しておくだけでいい。夏場には朝4時から水撒きをしますが、家にいながらできますよ」

各ハウスには、トランシーバーのような形をした器具が土の上に設置されています。地中の水分量と地表の温度を測定するための機械です。測定した情報は、1時間ごとにスマートフォンに表示されます。水が足りていない、温度が高い・低いなど

の問題があれば、水を撒いたり、ハウスの開け閉めをして調整します。

清貧はいらない 追求するのは利益

伏田さんが新規就農したのは8年前。大学と大学院で農業経営を学んだ伏田さんですが、当初から「IT農業」の設計図が頭の中にあっただけではないと言います。就職した外食産業では、農業法人を立ち上げて農業参入の手伝いを経験。そこで初めて有機農業との出会いがありました。その後、金融機関に転職して個人・法人向けの融資業務を7年経験。異例の経歴を辿り、2015年につくば市で就農しました。研修も受けないままとりあえず農家になつてはみたものの、最初の数年間は失敗ばかり続いたと言います。例えば水やり一つにしても、わからないことだらけ。

「水が必要なのかどうなのか、土を見ても何もわからん。挿すだけで勝手に測ってくれるものがあつたらなあと思っただけです」

そう思った思いが浮かぶたび展示会などに足を運んで、「失敗」や「面倒」を解決してくれるツールを探しました。水をスプリンクラーで撒くのも、その方が均一に撒けるから。伏田さんが目指している農業は、「高品質の野菜を安定供給する」と。そのための設備投資は惜しみません。肥料も全国を回って最高のものばかりを集め独自にブレンドしています。

「収量が取れば、採算は合うはず。僕は農業やってません。仕組みがうまくワークしているかどうか見て、管理をしてるだけ。ハウス1棟にど

ハウスの周囲には雑草を極力生やさない。





3 ふしちゃんファームのハウスでは、小松菜のほか、水菜やロメインレタスなども作っている。学校給食にも出荷する。

4 虫食いのほとんどない、美しい小松菜がびしっと整列する光景は圧巻。



5 マルチは穴の幅や間隔を独自に最適化した特注のものを使っている。

6 収穫直後から鮮度をキープ。農場管理の国際規格であるASIAGAPの認証を受け、衛生管理も行き届いている。

有機の未来も前に進める

「栽培期間の短縮」も効率化の一つ、苗を別で作ってから植えることで、

れだけお金をかけ、どれだけの利益があったのか。採算が数字でわかるように管理します」

利益を追求するのは、農業を持続可能なものにするため。効率を上げて製造原価を下げることを優先します。

例えばハウスや遮光ネットの閉めは、手動でくるくると回すのではなく、電動ドリルを使って一気に回します。

「だってハウスの開け閉めは、何の利益も生み出さないでしょ？」

以前は水を撒いたまま朝まで締め忘れてもありませんでした。ヒューマンエラーによって発生するコストは

無駄以外の何でもありません。タイマー制御で水撒きができるように、どうしても人が介在しないといけない作業にだけ、スタッフを配置します。

適正価格で高品質な有機農産物が大量に出回るようになれば、有機農業を取り巻く状況は変わってくる。伏田さんは信じています。そのためにも利益を大幅に出せる企業にならなければ。

「清貧」を目指しても若い人はやりません。東京でくすぶっている若者に、「簡単だし、食えるから、やってみない？」と言えるようにならないと、農業は変わらない」

ハウスの中に置く時間を短くし、ハウスを年間8〜9回転させています。これによって供給のスピードが上がっているだけではありません。虫と病気にやられるリスクも減らすことができます。病虫害の世代が回ると言います。病虫害の世代が回ると言います。病虫害の世代が回ると言います。

ふしちゃんファームのハウス周辺には雑草がほとんど目につきません。「とにかく大事なのは、雑草が生えない環境を作ること。雑草が生えたとそこに虫がたまって作物に悪さをします。有機だから仕方ない、虫が食べている野菜ほどおいしい、というのとは違う。設備投資をしていない、虫を排除する技術がないだけです」

薬物の病害虫防除に関しては、ここに最先端がある、と自負します。

それはつくばに拠点を持つ国の研究機関である農研機構と一緒に取り組んでいるから。就農するとき「つくばなら有機農業の最先端の技術を開発できるはず」と考え、縁もゆかりもなかったつくば市を選んだことが功を奏しました。虫がついて困っていた時に、農研機構が開催していた公開授業に申し込んで、そこから繋がった縁です。

大地を守る会を知ったのは学生の頃だったという伏田さん。その成り立ちに感動して、いつか取引したいなと思っていたところ、たまたま商談会で出会いがあり取引が始まりました。

「自分の子どもに、畑でちぎってそのまま食べさせられる野菜を作るのが私の信念。会長の藤田さんや、大地の生産者の方々の思いを引き継いで、私がさらに前に進めたいと思っています」

伏田さんは、不敵な笑みを浮かべ、こうつぶやきました。

「有機はまだまだこんなもんじゃない」

くせがなく使いやすい
小松菜・200g

1038 産
200g 288円(税込311円)

シャキシャキとした歯ごたえがさわやか
水菜・200g

1042 産
200g 323円(税込349円)

肉厚でバリバリの食感
有機ロメインレタス 1コ

1059 産
1コ 313円(税込338円)

⑤ふしちゃんファーム(茨城県)
※異なる産地のものが届く場合があります。



ふしちゃんファームをご紹介した「オーガニックフェスタ2022」のアーカイブ映像はこちら



7 子育て世代が多く暮らすつくば市。社員だけでなくパートスタッフも若い世代が多い。

8 育苗ポットに種を落とす作業。苗を作ってからハウスに植えることで、年間のハウス回転数を上げることができる。



イベント

編集後記

今は、有機のいちご栽培に挑戦している伏田さん。将来は海外に渡って有機農業をしようと決めているそうです。改善を重ね、工夫をしながらどんどん前へ進んでいる姿に、これからの農業の可能性を感じました。(編集部・仲庭)

「でんきを消して、スローな夜を。」 100万人のキャンドルナイト 2022.6.15(水)~21(火)

「でんきを消して、スローな夜を。」を合言葉に、2003年に大地を守る会が呼びかけ、「100万人のキャンドルナイト」はスタートしました。

夏至と冬至の夜8時から10時の2時間、電気を消してロウソクの灯火の下、ひとりひとりがゆっくりと考える時間を持つことを提唱しています。

今年の夏は、6月15日(水)から21日(火)夏至までの1週間、呼びかけます。

おうちで、職場で、学校で、みんなでいっせいでんきを消してみませんか。

詳細は「100万人のキャンドルナイト」HPをご覧ください。
<https://candle-night.tokyo/>



- 1 港区・大本山増上寺。でんきを消して、キャンドル灯りになった大殿のステージ。
- 2 消灯した増上寺境内と消灯前の東京タワー。夜8時ジャストにライトダウンしました。
- 3 夜8時のライトダウンに向けて、出演者、来場者一緒になってのカウントダウン。



ソーシャルレポート

南アフリカの未来の子どもたちを応援!

人種・貧困など様々な社会問題を抱えた南アフリカ。ルイボス茶のふるさとですが、子どもたちをはじめ、依然として支援が必要な国の一つです。大地を守る会では、プロスペリティ株式会社と共同で将来を担う子どもたちが通う学校を支援する「大地を守る会南アフリカ基金」を2000年に立ち上げ、翌年より支援商品の販売を開始し、今年で21年目を迎えました。

充実した教育こそが、子どもたちの未来創造力を育てるために必要と考え、主に文房具やスポーツ用品など、現地の要望にあった支援を毎年行っています。



- 1 小学校訪問。子どもたちの成長が楽しみ
- 2 14回+15回の基金で設置した学校の教室
- 3 芸術文化活動にも力を入れ、訪問時には心のこもった歌や笛の演奏も聞かせてくれます

「大地を守る会南アフリカ基金」支援報告

大地を守る会では、ルイボス茶(有機栽培)1パックにつき23円を積み立てる「大地を守る会ルイボス基金」と南アフリカオーガニックワイン1本につき18円を積み立てる「大地を守る会オーガニックワイン基金」を通じて、南アフリカ

の子どもたちを支援しています。2019年4月以降、コロナ禍で現地に行くことができませんでしたが、2022年春に南アフリカの小学校に制服や体操服、スポーツ用品を届ける予定です。支援報告は、5月以降に別チラシでもお知らせいたします。



まろやかなやさしい味わい
ルイボス茶(有機栽培)
2795 37円/パック
3.5g×50包 2300円(税込2484円)
原産国/南アフリカ ④ルイボス製茶(香川県三豊市)
※1パックにつき23円を「大地を守る会ルイボス基金」として積み立て、南アフリカの子どもたちを支援します。

ご協力ありがとうございました



※2019年1月1日~2021年12月31日の合計金額

『NEWS大地を守る』はWEBでもご覧いただけます。イベントの詳細・お申込みもWEBからどうぞ。

大地を守る会

検索



●『NEWS大地を守る』に掲載している取り組みは、主に大地を守る会の宅配サービスの年会費・利用料で運営されています。

お問い合わせ

オイシックス・ラ・大地 ソーシャルコミュニケーション部
TEL●050-5306-8513
E-mail●ord_social@oisixradaichi.co.jp

注意事項

当社は、大地を守る会のイベント及び大地を守る会が告知する他団体のイベントにお申込みいただく際、ご記入いただく個人情報を、お申込み内容に関する確認、参加者への連絡、抽選、抽選結果連絡、お問合せに対する回答、非常時に関する対応、イベントの質向上管理のために利用させていただきます。なお当社は、イベント等を旅行者に業務委託する場合があります。この場合、個

人情報を開示することがあります。業務委託にあたっては、個人情報の保護に関する契約を締結し、業務委託先が契約を遵守するよう必要かつ適切な管理及び監督を行います。上記に同意の上お申込みください。個人情報の取扱いに関するその他の条件については、当社ウェブサイト上の個人情報保護方針をご確認ください。
<https://takuhai.daichi-m.co.jp/Information/8>

※イベントについてWEBへのアクセスが不可能な場合は、ソーシャルコミュニケーション部へお電話いただきご確認・お申込みください。



発行 オイシックス・ラ・大地株式会社
東京都品川区大崎1-11-2 ゲートシティ大崎イーストタワー5階
TEL 050-5306-8513